Windows システムに Unified Manager をインストールする

Active IQ Unified Manager 9.12

NetApp
October 16, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-912/install-windows/concept_what_unified_manager_server_does.html on October 16, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Windows システムに Unified Manager をインストールする . . . 1
- Active IQ Unified Manager の概要 . . . 1
  - Unified Manager サーバの機能 . . . 1
  - インストール手順の概要 . . . 1
- Unified Manager をインストールするための要件 . . . 2
  - 仮想インフラおよびハードウェアシステムの要件 . . . 2
  - Windows ソフトウェアとインストールの要件 . . . 4
  - サポートされているブラウザ . . . 5
  - プロトコルとポートの要件 . . . 6
  - ワークシートへの記入 . . . 8
- Unified Manager ソフトウェアのインストール、アップグレード、削除を行います . . . 10
  - インストールプロセスの概要 . . . 10
  - Windows への Unified Manager のインストール . . . 11
  - JBoss パスワードを変更しています . . . 14
  - Unified Managerバージョンでサポートされているアップグレードパス . . . 15
  - Unified Manager をアップグレードする . . . 16
  - サードパーティ製品のアップグレード . . . 18
  - Unified Manager を再開しています . . . 18
  - Unified Manager をアンインストールしています . . . 19

Windows システムに Unified Manager をインストールする

Active IQ Unified Manager の概要

Active IQ Unified Manager （旧 OnCommand Unified Manager ）を使用すると、 ONTAP ストレージシステムの健常性とパフォーマンスを 1 つのインターフェイスから監視および管理できます。Unified Manager は、 Linux サーバや Windows サーバに導入できるほか、 VMware ホストに仮想アプライアンスとして導入することもできます。

インストールの完了後、管理対象のクラスタを追加すると、 Unified Manager のグラフィカルインターフェイスに、監視対象ストレージシステムの容量、可用性、保護、パフォーマンスのステータスが表示されます。

- 関連情報 *

"NetApp Interoperability Matrix Tool で確認できます"

Unified Manager サーバの機能

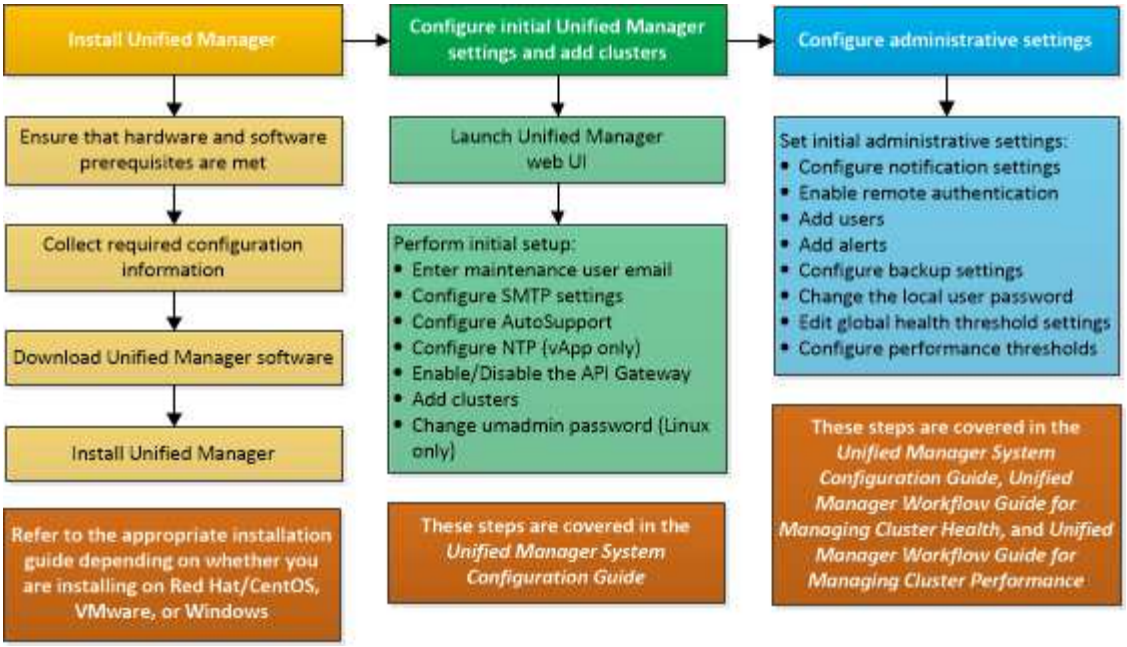
Unified Manager サーバインフラは、データ収集ユニット、データベース、アプリケーションサーバで構成され、検出、監視、ロールベースアクセス制御（ RBAC ）、監査、ロギングなどのインフラサービスを提供します。

Unified Manager は、クラスタの情報を収集してデータベースにデータを格納し、そのデータを分析してクラスタに問題がないかどうかを確認します。

インストール手順の概要

以下は、 Unified Manager を使用する前に必要なインストール作業のワークフローです。

ここでは、次のワークフローに示されている各項目について説明します。



Unified Manager をインストールするための要件

インストールプロセスを開始する前に、 Unified Manager をインストールするサーバがソフトウェア、ハードウェア、 CPU 、およびメモリの所定の要件を満たしていることを確認してください。

ネットアップは、 Unified Manager アプリケーションコードの変更をサポートしていません。Unified Manager サーバにセキュリティ対策を適用する必要がある場合は、 Unified Manager がインストールされているオペレーティングシステムに変更を加える必要があります。

Unified Manager サーバへのセキュリティ対策の適用の詳細については、ナレッジベースの記事を参照してください。

"Data ONTAP for clustered Active IQ Unified Manager に適用されるセキュリティ対策のサポート性"

- 関連情報 *

"NetApp Interoperability Matrix Tool で確認できます"

仮想インフラおよびハードウェアシステムの要件

仮想インフラまたは物理システムに Unified Manager をインストールする場合、メモリ、 CPU 、およびディスクスペースの最小要件を満たす必要があります。

次の表に、メモリ、 CPU 、およびディスクスペースの各リソースについて、推奨される値を示します。これらは、 Unified Manager が許容されるパフォーマンスレベルを達成することが確認されている値です。

ハードウェア構成	推奨設定
RAM	12GB （最小要件は 8GB ）

ハードウェア構成	推奨設定
プロセッサ	CPU × 4
CPU サイクル容量	合計 9572MHz （最小要件は 9572MHz ）
空きディスク容量	150GB 。割り当ては次のとおりです。 • 100GB - インストールディレクトリ用 • 50GB の MySQL データディレクトリ用ディスクスペースが必要です

Unified Manager はメモリの少ないシステムにもインストールできますが、推奨される 12GB の RAM があれば最適なパフォーマンスが保証されるだけでなく、拡張時にクラスタやストレージオブジェクトの追加にも対応できます。Unified Manager を導入する VM にはメモリの上限などを設定しないでください。また、ソフトウェアがシステムで割り当てられているメモリを利用できなくなる機能（バルーニングなど）は有効にしないでください。

また、 1 つの Unified Manager インスタンスで監視できるノードの数には上限があり、この上限を超える場合は 2 つ目の Unified Manager インスタンスをインストールする必要があります。詳細については、 _ ベストプラクティスガイド _ を参照してください。

"テクニカルレポート 4621 ：『 Unified Manager Best Practices Guide 』"

メモリページのスワッピングは、システムや管理アプリケーションのパフォーマンスに悪影響を及ぼします。CPU リソースがホスト全体で競合して使用できなくなると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

専用使用の要件

Unified Manager をインストールする物理システムまたは仮想システムは、他のアプリケーションとは共有せず、 Unified Manager 専用にする必要があります。他のアプリケーションにシステムリソースが消費されることで、 Unified Manager のパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

バックアップ用のスペース要件

Unified Manager のバックアップとリストア機能を使用する場合は、「 data 」ディレクトリまたはディスクに 150GB のスペースがあるように追加の容量を割り当ててください。バックアップはローカルにもリモートにも保存できますが、Unified Manager ホストシステムとは別の、 150GB 以上のスペースがあるリモートの場所に保存することを推奨します。

ホスト接続の要件

Unified Managerをインストールする物理システムまたは仮想システムは、問題なく設定できるように設定する必要があります `ping` ホスト自体のホスト名です。IPv6構成の場合は、確認する必要があります `ping6` これでUnified Managerを正しくインストールできるようになります。

製品の Web UI には、ホスト名（またはホストの IP アドレス）を使用してアクセスできます。導入時に静的 IP アドレスを使用してネットワークを設定した場合は、指定したネットワークホストの名前を使用します。DHCP を使用してネットワークを設定した場合は、 DNS からホスト名を取得します。

完全修飾ドメイン名（ FQDN ）または IP アドレスの代わりに短縮名を使用した Unified Manager へのアクセスをユーザに許可する場合は、短縮名が有効な FQDN に解決されるようにネットワークを設定する必要があります。

Windows ソフトウェアとインストールの要件

Unified Manager を Windows に正しくインストールするには、 Unified Manager をインストールするシステムがソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

オペレーティングシステムソフトウェア

Unified Managerは次のエディションのWindowsにインストールできます。

- Microsoft Windows Server 2019 Standard EditionおよびDatacenter Edition
- Microsoft Windows Server 2022 Standard EditionおよびDatacenter Edition

Unified Manager は、以下の言語で 64 ビットの Windows オペレーティングシステムでサポートされています。

- 英語
- 日本語
- 簡体字中国語

サポートされている Windows のバージョンの最新のリストについては、 Interoperability Matrix を参照してください。

"mysupport.netapp.com/matrix"

ネットアップは、Microsoft System Center Configuration Manager（SCCM）などのサードパーティツールを使用したUnified Managerのインストールをサポートしていません。

Unified Manager のみを実行する専用のサーバを用意する必要があります。他のアプリケーションをサーバにインストールしないでください。企業の規制により、アクティブなアンチウイルスソフトウェアがWindowsシステムにインストールされている可能性があります。インストールが失敗しないように、Unified Managerをインストールする前にウィルス対策ソフトウェアを無効にする必要があります。

サードパーティ製ソフトウェア

Unified Manager にバンドルされているサードパーティパッケージを次に示します。これらのサードパーティパッケージがシステムにインストールされていない場合、 Unified Manager のインストール時にインストールされます。

- Microsoft Visual C++2015 再頒布可能パッケージバージョン 14.26.28720.3
- Visual Studio 2013 バージョン 12.0.40660.0 の Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージ
- MySQL Community Editionバージョン8.0.30
- Python 3.11.1
- OpenJDKバージョン11.0.16

- p7zip バージョン 18.05 以降

Unified Manager 9.5 以降、 OpenJDK は Unified Manager のインストールパッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5 以降では Oracle Java はサポートされません。

MySQL がインストールされている場合は、次の点を確認してください。

- デフォルトのポートを使用している。
- サンプルデータベースがインストールされていません。
- サービス名は「 `M YSQL8` 」です。

Unified Manager は WildFly Web サーバに導入されます。WildFly 19.0.0 が Unified Manager にバンドルされて構成されています。

サードパーティ製ソフトウェアをアップグレードする前に、 Unified Manager の実行中のインスタンスをシャットダウンする必要があります。サードパーティ製ソフトウェアのインストールが完了したら、 Unified Manager を再起動できます。

インストールの要件

- Microsoft .NET 4.5.2 以降がインストールされている必要があります。
- 。 `temp` インストールファイルを展開するために、ディレクトリには2GBのディスクスペースを設定する必要があります。ディレクトリが作成されたかどうかを確認するには、コマンドラインインターフェイスで次のコマンドを実行します。 `echo %temp%`
- Unified Manager の MSI ファイルのキャッシュ用に、 Windows ドライブに 2GB のディスクスペースを確保しておく必要があります。
- Unified ManagerをインストールするMicrosoft Windows Serverの完全修飾ドメイン名（FQDN）を設定し `ping` ホスト名とFQDNへの応答が完了しました。
- Microsoft IIS World Wide Web Publishing サービスを無効にして、ポート 80 および 443 が空いていることを確認する必要があります。
- インストール中は、「 Windows Installer RDS Compatibility 」のリモートデスクトップセッションホスト設定が無効になっていることを確認してください。
- UDP ポート 514 を他のサービスで使用されないように空けておく必要があります。
- Unified Managerをインストールする前に、システムのすべてのウィルス対策ソフトウェアを無効にする必要があります。インストールが完了したら、次のパスをウイルス対策スキャンから手動で除外してください。
  - Unified Managerデータディレクトリ。例： `C:\ProgramData\NetApp\OnCommandAppData\`
  - Unified Managerのインストールディレクトリ。例： `\C:\Program Files\NetApp\`
  - MySQLのデータディレクトリ。例： `C:\ProgramData\MySQL\MySQLServerData`

サポートされているブラウザ

Unified Manager Web UI にアクセスするには、サポートされているブラウザを使用しま

す。

サポートされているブラウザとバージョンは Interoperability Matrix で確認できます。

"mysupport.netapp.com/matrix"

すべてのブラウザで、ポップアップブロックを無効にすることでソフトウェアの機能が正しく表示されます。

アイデンティティプロバイダ（ IdP ）でユーザを認証できるように Unified Manager で SAML 認証を設定する場合は、 IdP でサポートされるブラウザのリストも確認してください。

プロトコルとポートの要件

このポートとプロトコルを使用して、 Unified Manager サーバは管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントと通信します。

Unified Manager サーバへの接続

通常の環境では、 Unified Manager Web UI への接続に常にデフォルトのポートが使用されるため、ポート番号を指定する必要はありません。たとえば、Unified Managerは常にデフォルトのポートで実行されるため、と入力できます `https://<host>` ではなく `https://<host>:443`。

Unified Manager サーバでは、次のインターフェイスにアクセスする際に特定のプロトコルを使用します。

インターフェイス	プロトコル	ポート	説明
Unified Manager Web UI	HTTP	80	Unified Manager Web UI へのアクセスに使用され、自動的にセキュアポート 443 にリダイレクトされます。
Unified Manager Web UI および API を使用するプログラム	HTTPS	443	Unified Manager Web UI へのセキュアなアクセスと API 呼び出しに使用されます。 API 呼び出しは HTTPS でしか実行できません。
メンテナンスコンソール	SSH/SFTP	22	メンテナンスコンソールにアクセスしてサポートバンドルを取得する際に使用されます。
Linux コマンドライン	SSH/SFTP	22	Red Hat Enterprise Linux または CentOS のコマンドラインにアクセスしてサポートバンドルを取得する際に使用されます。

インターフェイス	プロトコル	ポート	説明
syslog	UDP	514	ONTAP システムからのサブスクリプションベースの EMS メッセージにアクセスし、メッセージに基づいてイベントを作成する際に使用されます。
REST	HTTPS	ポート 1	認証された ONTAP システムからの REST API ベースのリアルタイムの EMS イベントにアクセスする際に使用されます。
MySQL データベース	MySQL	3306	OnCommand および OnCommand Workflow Automation API サービスから Unified Manager へのアクセスに使用されます。

MySQLのデフォルトポート3306は、WindowsシステムにUnified Managerをインストールする際にlocalhostにのみ使用できます。これは、前の構成を維持したままのアップグレードシナリオには影響しません。この設定は変更可能で、を使用して他のホストから接続を利用できるようにすることができます `Control access to MySQL port 3306` メンテナンスコンソールのオプション。詳細については、を参照してください "その他のメニューオプション"。HTTP 通信と HTTPS 通信に使用されるポート（ポート 80 と 443 ）は、 Unified Manager メンテナンスコンソールを使用して変更できます。詳細については、を参照してください "Active IQ Unified Manager を設定しています"。

Unified Manager サーバからの接続

ファイアウォールの設定で、 Unified Manager サーバと管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントの間の通信に使用するポートを開くように設定する必要があります。ポートが開いていない場合、通信は失敗します。

環境に応じて、 Unified Manager サーバから特定の接続先への接続に使用するポートとプロトコルを変更することもできます。

Unified Manager サーバは、次のプロトコルとポートを使用して、管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントに接続します。

宛先	プロトコル	ポート	説明
ストレージシステム	HTTPS	443 tcp	ストレージシステムの監視と管理に使用されます。

宛先	プロトコル	ポート	説明
ストレージシステム	NDMP	10000 TCP	特定の Snapshot リストア処理に使用されます。
AutoSupport サーバ	HTTPS	443	AutoSupport 情報の送信に使用されます。この機能を実行するには、インターネットアクセスが必要です。
認証サーバ	LDAP	389	認証要求、およびユーザとグループの検索要求に使用されます。
LDAPS	636	セキュアな LDAP 通信に使用されます。	メールサーバ
SMTP	25	アラート通知 E メールの送信に使用されます。	SNMP トラップの送信元
SNMPv1 または SNMPv3	162 UDP	アラート通知 SNMP トラップの送信に使用されます	外部データプロバイダのサーバ
TCP	2003 年	Graphite などの外部データプロバイダにパフォーマンスデータを送信します。	NTP サーバ

ワークシートへの記入

Unified Manager をインストールして設定する前に、環境に関する特定の情報を確認しておく必要があります。この情報はワークシートに記録できます。

Unified Manager のインストール情報

Unified Manager をインストールする際に必要な情報を記入します。

ソフトウェアが導入されているシステム	あなたの価値
ホストの完全修飾ドメイン名	
ホストの IP アドレス	
ネットワークマスク	

ソフトウェアが導入されているシステム	あなたの価値
ゲートウェイの IP アドレス	
プライマリ DNS アドレス	
セカンダリ DNS アドレス	
検索ドメイン	
メンテナンスユーザのユーザ名	
メンテナンスユーザのパスワード	

Unified Manager の設定情報

インストール後に Unified Manager を設定するための情報を記入します。設定によっては省略可能な値もあります。

設定	あなたの価値
メンテナンスユーザの E メールアドレス	
SMTP サーバのホスト名または IP アドレス	
SMTP ユーザ名	
SMTP パスワード	
SMTP ポート	25 （デフォルト値）
アラート通知の送信元 E メールアドレス	
認証サーバのホスト名または IP アドレス	
Active Directory の管理者名または LDAP のバインド識別名	
Active Directory のパスワードまたは LDAP のバインドパスワード	
認証サーバのベース識別名	
アイデンティティプロバイダ（ IdP ）の URL	

設定	あなたの価値
アイデンティティプロバイダ（ IdP ）のメタデータ	
SNMP トラップの送信先ホストの IP アドレス	
SNMP ポート	

クラスタ情報

Unified Manager を使用して管理するストレージシステムの情報を記入します。

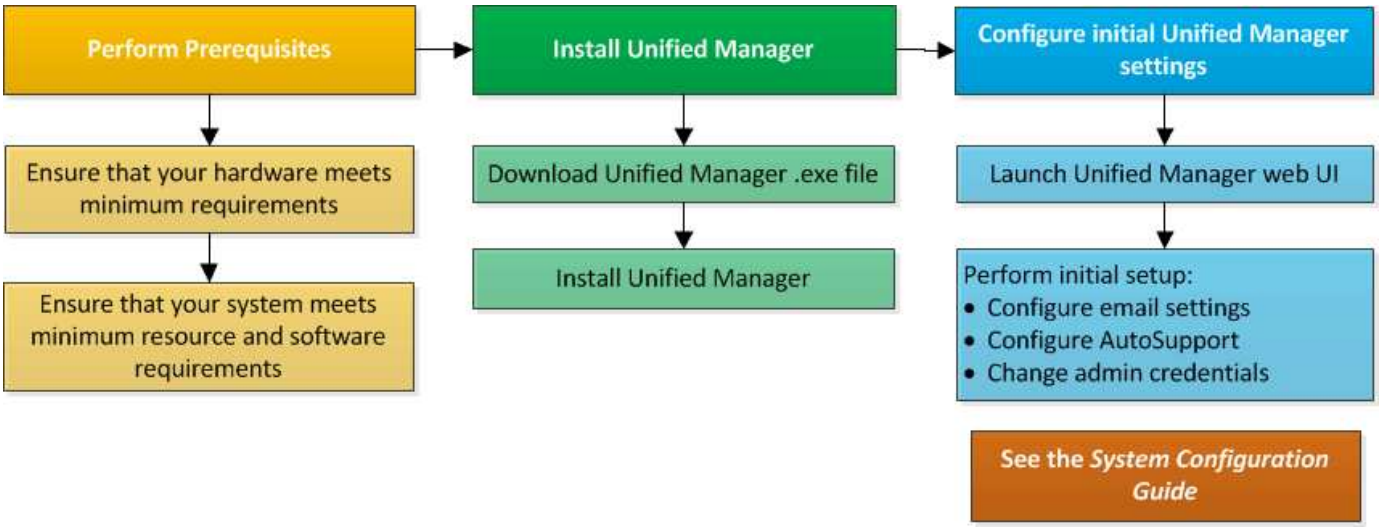
クラスタ **1 / N**	あなたの価値
ホスト名またはクラスタ管理 IP アドレス	
ONTAP 管理者のユーザ名 管理者には「 admin 」ロールが割り当てられている必要があります。	
ONTAP 管理者のパスワード	
プロトコル	HTTPS

Unified Manager ソフトウェアのインストール、アップグレード、削除を行います

Unified Managerのインストール、新しいバージョンへのアップグレード、またはUnified Managerアプリケーションの削除を実行できます。

インストールプロセスの概要

以下は、 Unified Manager を使用する前に必要なインストール作業のワークフローです。



Windows への Unified Manager のインストール

Windows で Unified Manager をダウンロードしてインストールする一連の手順を理解することが重要です。

Unified Manager をインストールしています

Unified Manager をインストールすることで、データストレージの容量、可用性、パフォーマンス、保護の問題を監視してトラブルシューティングすることができます。

- 必要なもの *
- Unified Manager をインストールするシステムがシステムおよびソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

  を参照してください "ハードウェアシステムの要件"。

  を参照してください "Windows ソフトウェアとインストールの要件"。

  Unified Manager 9.5 以降、 OpenJDK はインストールパッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5 以降では Oracle Java はサポートされません。

- Windows の管理者権限が必要です。ユーザ名の先頭に感嘆符が付いていないことを確認してください!`". Installation of Unified Manager might fail if the user name of user running the installation begins with “!”。
- サポートされている Web ブラウザを用意しておきます。
- Unified Manager のメンテナンスユーザのパスワードは 8~20 文字で指定し、アルファベットの大文字または小文字、数字、および特殊文字を含める必要があります。
- メンテナンスユーザまたは MySQL の root ユーザのパスワードに次の特殊文字は使用できません。 " ' ' % 、 = &<> | ^ \ / （） []; ：

  次の特殊文字を使用できます。 ~ ！@ # $ * - ？。[+]

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントで Windows にログインします。
2. NetApp Support Siteにログインし、 Unified Manager のダウンロードページに移動します。

   "NetApp Support Site"

3. 必要なバージョンの Unified Manager を選択し、エンドユーザライセンス契約（ EULA ）に同意します。
4. Unified Manager Windows インストールファイルを Windows システムのターゲットディレクトリにダウンロードします。
5. インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。
6. Unified Manager インストーラの実行ファイル（ .exe ファイル）を右クリックし、管理者として実行します。

   Unified Manager により、不足しているサードパーティパッケージとインストールされているパッケージが検出されて表示されます。必要なサードパーティパッケージがシステムにインストールされていない場合、 Unified Manager のインストール時にインストールされます。

7. 「 * 次へ * 」をクリックします。
8. ユーザ名とパスワードを入力してメンテナンスユーザを作成します。
9. データベース接続ウィザードで、 MySQL の root パスワードを入力します。
10. [* 変更 *] をクリックして、 Unified Manager のインストールディレクトリと MySQL のデータディレクトリの新しい場所を指定します。

    インストールディレクトリを変更しない場合は、デフォルトのインストールディレクトリに Unified Manager がインストールされます。

11. 「 * 次へ * 」をクリックします。
12. Ready to Install Shield ウィザードで、 * Install * をクリックします。
13. インストールが完了したら、「 * 完了 * 」をクリックします。
14. アクティブなアンチウイルスソフトウェアがWindowsシステムにインストールされている場合は、インストールの完了後にアンチウイルススキャンから次のパスを手動で除外します。
    - Unified Manager データディレクトリ
    - Unified Manager インストールディレクトリ
    - MySQL データディレクトリ

インストールによって、複数のディレクトリが作成されます。

- インストールディレクトリ

  インストール時に指定した Unified Manager のルートディレクトリです。例 `C:\Program Files\NetApp\`

- MySQL データディレクトリ

  インストール時に指定した MySQL データベースの格納先ディレクトリです。例 `C:\ProgramData\MySQL\MySQLServerData\`

- Java ディレクトリ

  OpenJDK がインストールされるディレクトリです。例 `C:\Program Files\NetApp\JDK\`

- Unified Manager のアプリケーションデータディレクトリ（ appDataDir ）

  アプリケーションで生成されるすべてのデータが格納されるディレクトリです。ログ、サポートバンドル、バックアップなど、その他のすべてのデータが含まれます。例 `C:\ProgramData\NetApp\OnCommandAppData\`

Web UI にアクセスして Unified Manager の初期セットアップを実行できます。手順については、を参照してください "Active IQ Unified Manager を設定しています"。

Unified Manager の無人インストールを実行する

コマンドラインインターフェイスを使用して、手動操作なしで Unified Manager をインストールできます。無人インストールを実行するには、キーと値のペアの形式でパラメータを渡します。

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントで Windows のコマンドラインインターフェイスにログインします。
2. Unified Manager をインストールする場所に移動し、次のいずれかを実行します。

オプション	手順

サードパーティパッケージが事前にインストールされている場合	`ActiveIQUnifiedManager-x.y.exe /V"MYSQL_PASSWORD=mysql_password INSTALLDIR=\"Installation directory\" MYSQL_DATA_DIR=\"MySQL data directory\" MAINTENANCE_PASSWORD=maintenance_password MAINTENANCE_USERNAME=maintenance_username /qn /l*v CompletePathForLogFile"`
	
	• 例： *
	
	`ActiveIQUnifiedManager.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! INSTALLDIR=\"C:\Program Files\NetApp\" MYSQL_DATA_DIR=\"C:\ProgramData\MYSQL\MySQLServer\" MAINTENANCE_PASSWORD=* MAINTENANCE_USERNAME=admin /qn /l*v C:\install.log"`

オプション	手順

サードパーティパッケージがインストールされていない場合	`ActiveIQUnifiedManager-x.y.exe /V"MYSQL_PASSWORD=mysql_password INSTALLDIR=\"Installation directory\" MYSQL_DATA_DIR=\"MySQL data directory\" MAINTENANCE_PASSWORD=maintenance_password MAINTENANCE_USERNAME=maintenance_username /qr /l*v CompletePathForLogFile"`
	
	• 例：*
	
	`ActiveIQUnifiedManager.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! INSTALLDIR=\"C:\Program Files\NetApp\" MYSQL_DATA_DIR=\"C:\ProgramData\MYSQL\MySQLServer\" MAINTENANCE_PASSWORD=* MAINTENANCE_USERNAME=admin /qr /l*v C:\install.log"`

。 `/qr` オプションを指定すると、ユーザインターフェイスが減少してQuietモードが有効になりますインストールの進捗を示す基本的なユーザインターフェイスが表示されます。入力を求められることはありません。JRE、MySQL、7zipなどのサードパーティパッケージが事前にインストールされていない場合は、を使用する必要があります `/qr` オプションがの場合、のインストールは失敗します `/qn` オプションは、サードパーティパッケージがインストールされていないサーバで使用します。

。 `/qn` オプションを指定すると、ユーザインターフェイスのないQuietモードが有効になりますインストール中にユーザインターフェイスや詳細は表示されません。を使用しないでください `/qn` オプション：サードパーティパッケージがインストールされていない場合。

3. 次の URL を使用して Unified Manager Web ユーザインターフェイスにログインします。

   `https://IP address`

JBoss パスワードを変更しています

インストール時に設定されたインスタンス固有の JBoss パスワードをリセットできます。このセキュリティ機能によって Unified Manager のインストール設定が上書きされてしまいます。必要に応じて、パスワードをリセットすることもできます。この処理を実行すると、 MySQL へのアクセス時に JBoss で使用するパスワードも変更になります。

- 必要なもの *
- Unified Manager がインストールされている Windows システムに対する admin 権限が必要です。
- MySQL の root ユーザのパスワードが必要です。
- ネットアップが提供するサービスにアクセスできる必要があります `password.bat` ディレクトリ内のス

クリプト

```
C:\Program Files\NetApp\essentials\bin。
```

手順

1. Unified Manager ホストマシンに admin ユーザとしてログインします。
2. Windows サービスコンソールを使用して、次の Unified Manager サービスを停止します。
   - NetApp Active IQ 取得サービス（ Ocie-au ）
   - NetApp Active IQ 管理サーバサービス（ Oncommandsvc ）
3. を起動します `password.bat` パスワード変更プロセスを開始するスクリプト：

   ```
   C:\Program Files\NetApp\essentials\bin> password.bat resetJBossPassword
   ```

4. プロンプトが表示されたら、 MySQL root ユーザのパスワードを入力します。
5. プロンプトが表示されたら、新しい JBoss ユーザのパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。

   パスワードは 8~16 文字で指定し、数字、大文字、小文字、および次の特殊文字の少なくとも 1 文字を含める必要があります。

   ```
   !@%^*-_=[]:<>.?/~+
   ```

6. スクリプトが完了したら、 Windows サービスコンソールを使用して Unified Manager サービスを開始します。
   - NetApp Active IQ 管理サーバサービス（ Oncommandsvc ）
   - NetApp Active IQ 取得サービス（ Ocie-au ）
7. すべてのサービスが開始されたら、 Unified Manager UI にログインできます。

Unified Managerバージョンでサポートされているアップグレードパス

Active IQ Unified Manager では、バージョンごとに特定のアップグレードパスがサポートされます。

すべてのバージョンのUnified Managerで、新しいバージョンへのインプレースアップグレードを実行できるわけではありません。Unified ManagerのアップグレードはN-2モデルに限定されています。つまり、アップグレードはすべてのプラットフォームの次の2つのリリースでのみ実行できます。たとえば、Unified Manager 9.10からUnified Manager 9.12へのアップグレードは、Unified Manager 9.11からのみ実行できます。

サポート対象よりも前のバージョンを実行している場合は、Unified Managerインスタンスをいずれかのサポート対象バージョンにアップグレードしてから、現在のバージョンにアップグレードする必要があります。

たとえば、インストールされているバージョンがOnCommand Unified Manager 9.5であり、最新のリリースActive IQ Unified Manager 9.12にアップグレードする場合は、一連のアップグレードを実行します。

アップグレードパスの例：

1. OnCommand Unified Manager 9.5 → Active IQ Unified Manager 9.7をアップグレードします。

2. 9.7→9.9にアップグレードします。
3. 9.→ 9.11にアップグレードします。
4. 9.11 → 9.12にアップグレードします。

アップグレードパスマトリックスの詳細については、こちらを参照してください "ナレッジベース（KB）の記事を参照してください"。

Unified Manager をアップグレードする

WindowsプラットフォームでUnified Manager 9.10または9.11をダウンロードして実行すると、9.12にアップグレードできます。

- 必要なもの *
- Unified Manager をアップグレードするシステムがシステム要件とソフトウェア要件を満たしている必要があります。

  を参照してください "ハードウェアシステムの要件"。

  を参照してください "Windows ソフトウェアとインストールの要件"。

  Unified Manager 9.5 以降、 OpenJDK はインストールパッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5 以降では Oracle Java はサポートされません。

  アップグレードを開始する前に、システムに Microsoft .NET 4.5.2 以上がインストールされていることを確認してください。

- MySQL Community Edition は、 Unified Manager のアップグレード時に自動的にアップグレードされます。システムにインストールされているMySQLのバージョンが8.0.30より前の場合は、Unified ManagerのアップグレードプロセスによってMySQLが8.0.30に自動的にアップグレードされます。旧バージョンのMySQLから8.0.30へのスタンドアロンアップグレードは実行しないでください。
- Windows の管理者権限が必要です。ユーザ名の先頭に感嘆符が付いていないことを確認してください!`". Installation of Unified Manager might fail if the user name of user running the installation begins with “!”。
- NetApp Support Siteにログインするための有効なクレデンシャルが必要です。
- アップグレード中に問題が使用される場合にデータが失われないようにするために、 Unified Manager マシンのバックアップを作成しておく必要があります。
- アップグレードを実行するための十分なディスクスペースが必要です。

  インストールドライブに、データディレクトリのサイズよりも 2.5GB の使用可能なスペースが必要です。十分な空きスペースがないと、アップグレードが中止され、追加で必要なスペース量がエラーメッセージに表示されます。

- アップグレードの実行中に、パフォーマンスデータの保持期間について、以前のデフォルト設定である 13 カ月のままにするか 6 カ月に変更するかを確認するプロンプトが表示されることがあります。変更を確認すると、 6 カ月を過ぎた過去のパフォーマンスデータはパージされます。
- アップグレードする前に、 *<InstallDir>\JDK_and _MySQL Data Directory* の開いているファイルまたはフォルダをすべて閉じてください。

- Windowsシステムにアクティブなウィルス対策ソフトウェアがインストールされている場合、Unified Managerのアップグレードが失敗することがあります。Unified Managerをアップグレードする前に、システムのウィルススキャンソフトウェアをすべて無効にする必要があります。

アップグレードプロセスの実行中は、 Unified Manager を使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、 Unified Manager をアップグレードする前に完了しておいてください

Unified Manager を OnCommand Workflow Automation のインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、 2 つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後に Workflow Automation の接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後に Workflow Automation にログインし、 Unified Manager からデータを取得していることを確認します。

手順

1. NetApp Support Siteにログインし、 Unified Manager のダウンロードページに移動します。

   "NetApp Support Site"。

2. 必要なバージョンの Unified Manager を選択し、エンドユーザライセンス契約（ EULA ）に同意します。
3. Unified Manager Windows インストールファイルを Windows システムのターゲットディレクトリにダウンロードします。
4. Unified Manager インストーラの実行ファイル（ .exe ファイル）を右クリックし、管理者として実行します。

   Unified Manager から次のメッセージが表示されます。

   ```
   This setup will perform an upgrade of Unified Manager. Do you want to
   continue?
   ```

5. [はい] をクリックし、 [次へ] をクリックします。
6. インストール時に設定した MySQL8 root パスワードを入力し、 * Next * をクリックします。
7. サポートされているWebブラウザで新しいウィンドウでWeb UIを起動し、ログインしてアップグレード後のバージョンのUnified Managerを使用します。
8. Windowsシステムにアクティブなアンチウイルスソフトウェアがインストールされている場合は、アップグレードの完了後に、アンチウイルススキャンから次のパスを手動で除外してください。
   - Unified Manager データディレクトリ
   - Unified Manager インストールディレクトリ
   - MySQL データディレクトリ

Unified Managerのサイレントアップグレードを行う場合は、次のコマンドを実行します。
`ActiveIQUnifiedManager-<version\>.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=<password> /qn /l*v <system_drive>:\install.log"`

サードパーティ製品のアップグレード

JRE などのサードパーティ製品が Windows システムにインストールされている場合は、 Unified Manager でそれらの製品をアップグレードできます。

これらのサードパーティ製品を開発する企業は、定期的にセキュリティの脆弱性を報告しています。このソフトウェアの新しいバージョンには、独自のスケジュールでアップグレードできます。

OpenJDK のアップグレード

Unified Manager がインストールされている Windows サーバで OpenJDK を新しいバージョンにアップグレードすることで、セキュリティの脆弱性に対する修正を入手できます。

- 必要なもの *

Unified Manager がインストールされている Windows システムに対する admin 権限が必要です。

OpenJDK のリリースはリリースファミリー内で更新できます。たとえば、OpenJDK 11.0.14からOpenJDK 11.0.16にアップグレードできますが、OpenJDK 11からOpenJDK 12に直接更新することはできません。

手順

1. Unified Manager ホストマシンに admin ユーザとしてログインします。
2. OpenJDK の適切なバージョン（ 64 ビット）をターゲットシステムにダウンロードします。

   たとえば、をダウンロードします `openjdk-11_windows-x64_bin.zip from http://jdk.java.net/11/`。

3. Windows サービスコンソールを使用して、次の Unified Manager サービスを停止します。
   - NetApp Active IQ 取得サービス（ Ocie-au ）
   - NetApp Active IQ 管理サーバサービス（ Oncommandsvc ）
4. を展開します `zip` ファイル。
5. 作成されたからディレクトリとファイルをコピーします `jdk` ディレクトリ（例： `jdk-11.0.16` Javaがインストールされている場所に移動します。例 `C:\Program Files\NetApp\JDK\`
6. Windows サービスコンソールを使用して Unified Manager サービスを開始します。
   - NetApp Active IQ 管理サーバサービス（ Oncommandsvc ）
   - NetApp Active IQ 取得サービス（ Ocie-au ）

Unified Manager を再開しています

設定を変更した場合、 Unified Manager の再起動が必要になることがあります。

- 必要なもの *

Windows の管理者権限が必要です。

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントで Windows にログインします。
2. Unified Manager のサービスを停止します。

方法	サービスを停止する順序
コマンドライン	a. `sc stop ocie-au` b. `sc stop Oncommandsvc`
Microsoft Service Manager の略	a. NetApp Active IQ 取得サービス（ Ocie-au ） b. NetApp Active IQ 管理サーバサービス（ Oncommandsvc ）

3. Unified Manager のサービスを開始します。

方法	サービスを開始する順序
コマンドライン	a. `sc start Oncommandsvc` b. `sc start ocie-au`
Microsoft Service Manager の略	a. NetApp Active IQ 管理サーバサービス（ Oncommandsvc ） b. NetApp Active IQ 取得サービス（ Ocie-au ）

Unified Manager をアンインストールしています

Unified Manager をアンインストールするには、プログラムと機能ウィザードを使用するか、コマンドラインインターフェイスから無人アンインストールを実行します。

- 必要なもの *
- Windows の管理者権限が必要です。
- ソフトウェアをアンインストールする前に、 Unified Manager サーバからすべてのクラスタ（データソース）を削除しておく必要があります。
- MySQLポート3306を許可またはブロックするために作成されたファイアウォールルールは手動で削除する必要があります。ファイアウォールルールは自動的には削除されません。

手順

1. 次のいずれかを実行して Unified Manager をアンインストールします。
   - Unified Managerをプログラムと機能*ウィザードからアンインストールする場合は、次の手順を実行します。
     i. [コントロールパネル > プログラムと機能 *] に移動します。
     ii. Active IQ Unified Manager を選択し、 * Uninstall * をクリックします。

- コマンドラインからUnified Managerをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。

  i. 管理者権限でWindowsのコマンドラインにログインします。

  ii. Active IQ Unified Manager ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

  ```
  msiexec /x {A78760DB-7EC0-4305-97DB-E4A89CDFF4E1} /qn /l*v
  %systemdrive%\UmUnInstall.log
  ```

  サーバでユーザアカウント制御（ UAC ）が有効になっていて、ドメインユーザとしてログインしている場合は、コマンドラインによるアンインストールを実行する必要があります。

Unified Manager がシステムからアンインストールされます。

2. Unified Manager のアンインストール時に削除されない次のサードパーティパッケージとデータをアンインストールします。
   - サードパーティパッケージ：JRE、MySQL、Microsoft Visual C# 43；2015再頒布可能パッケージ、Python、 7zipで構成されます
   - Unified Manager によって生成された MySQL のアプリケーションデータ
   - アプリケーションログとアプリケーションデータディレクトリの内容

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。